

建築保全センター 2011年度公共建築月間 記念講演会

2011.11.17

オーセンシティ

真純性を継承し現代的に活用

戦後の名建築「国際文化会館」(前川國男、坂倉準三、吉村順三)は、建て替

石がスペイン産の江崎石に替えられた。典型的なレプリカであり、毀替発財は定

ある法隆寺宝物館は、谷口吉生さんの設計による妥協のない近代建築だが、場所

「技術」を使って表現されたものの何を残すべきかは、難しい面があります。

「菊竹清訓氏」は過剰な構造表現が建物の個性になり保存も決まっています。

これも現代の解といえます。その脇にある柱の位置を示すものとしてレプリカのF

「アラ・パキス」という祭壇の遺跡は、リチャード・マイヤーの設計に於ける

私に最近、「機能×寿命は一定」という仮説を立てています。携帯電話、パソコン、

「東京駅」は、国鉄民営化のあと、非常に長いプロセスを経て、重要文化財の

「三菱一号館」(ジョサイロ・コンドル)は、1968年に取り壊される前の建物を

「技術」を使って表現されたものの何を残すべきかは、難しい面があります。

「菊竹清訓氏」は過剰な構造表現が建物の個性になり保存も決まっています。

これも現代の解といえます。その脇にある柱の位置を示すものとしてレプリカのF

「アラ・パキス」という祭壇の遺跡は、リチャード・マイヤーの設計に於ける

私に最近、「機能×寿命は一定」という仮説を立てています。携帯電話、パソコン、

「東京駅」は、国鉄民営化のあと、非常に長いプロセスを経て、重要文化財の

「三菱一号館」(ジョサイロ・コンドル)は、1968年に取り壊される前の建物を

「技術」を使って表現されたものの何を残すべきかは、難しい面があります。

「菊竹清訓氏」は過剰な構造表現が建物の個性になり保存も決まっています。

「菊竹清訓氏」は過剰な構造表現が建物の個性になり保存も決まっています。

これも現代の解といえます。その脇にある柱の位置を示すものとしてレプリカのF

「アラ・パキス」という祭壇の遺跡は、リチャード・マイヤーの設計に於ける

私に最近、「機能×寿命は一定」という仮説を立てています。携帯電話、パソコン、

「東京駅」は、国鉄民営化のあと、非常に長いプロセスを経て、重要文化財の



博物館明治村館長 青山学院大学教授 鈴木博之氏

記念講演 「文化財から文化資源への視点の転換」

建築保全センターは、公共建築月間記念行事として、11月17日、東京都港区の

「文化財から文化資源への視点の転換」の観点から、公共建築の保全評価と施設マネジメントに関する研究発表や、ライフライン事業者と学識経

「文化財から文化資源への視点の転換」の観点から、公共建築の保全評価と施設マネジメントに関する研究発表や、ライフライン事業者と学識経

「文化財から文化資源への視点の転換」の観点から、公共建築の保全評価と施設マネジメントに関する研究発表や、ライフライン事業者と学識経

「文化財から文化資源への視点の転換」の観点から、公共建築の保全評価と施設マネジメントに関する研究発表や、ライフライン事業者と学識経

「文化財から文化資源への視点の転換」の観点から、公共建築の保全評価と施設マネジメントに関する研究発表や、ライフライン事業者と学識経

「文化財から文化資源への視点の転換」の観点から、公共建築の保全評価と施設マネジメントに関する研究発表や、ライフライン事業者と学識経

「文化財から文化資源への視点の転換」の観点から、公共建築の保全評価と施設マネジメントに関する研究発表や、ライフライン事業者と学識経

文化財の維持・保全へ



建築保全センター理事長 尾島俊雄

公共建築月間の記念講演会では、2008年度に平井聖先生に「幕末期の江戸城、江戸藩邸について」、2009年度に中村昌生先生と中村光男先生に「京都迎賓館の建築をめぐる」、昨年度は藤森照信先生に「明治期の

今回の鈴木博之先生による講演は、起承転結の結論に当たるお話です。テーマは、「建築の保存・活用——文化財から文化資源への視点の転換」で、当財団の根幹、使命に関することです。

鈴木先生からは、多くの建築家が「場所性」ということについて刺激を受けました。著書の『東京の地霊』『ロンドン——地主と都市デザイン』は私も座右の書にしており

建物が、ある場所に当初から変わらぬ姿で保持され続けるというのは、大変難しい課題です。地方自治体にとっても、厳しい財政状況の中で、先生のお話から文化財を維持・保全し続けるためにどうすればよいかという知恵と発想の転換につながればと思います。

文化財を継承するときに、「何を守ればそれが継承されたことになるのか」という本質は、「オーセンティシティ(真純性)」という言葉を国際的に考えられてきました。欧州では、1964年のヴェネチア憲章において、「材料、技法、場所、デザインが、当初から変わらな

「表」はさまざまで、建物が異なれば場所も将来も異なるため、唯一の正解はありません。野生動物を守るようにまったく手を触れず保存することは難しく、修理などで日々姿を変えていきます。失われた姿をどう取り戻すべきかについては、常に議論が生じ、良かれと思っても往々にしてやり過ぎてしまします。

元の状態に戻せる「レパリアル(可逆的)な手段を用いよう」ということです。現実には、ケース・バイケースで、さまざまな手法がとられています。

「東京大手町の「大手町野村ビル」は、改築に当たり元の建物のモチーフを高層ビルにまねて、イメージを継承しました。東京銀行倶楽部(元・横河工務所)の改築では、お堀に面した部分を残そうとし、構造が不明だったため、レプリカがつくられました。その並びにある「日本工業倶楽部」(同)では、高層ビルに組み入れられる形で元の建物が残されています。一部は関東大震災の影響が残っています。

「慶応大学の「万来舎」(谷口吉郎)は、キャンパスの再開発に伴い解体され、半分が再建されました。隈研吾さんの設計により、抽象的な内部空間に、元の柱、暖炉、煙突、家員がオブジェとして採り入れられました。保存とも展示ともいえない不思議な手法です。

場所がなかったため、一角にレプリカがつくられ、店舗として使われています。残ったといえるかどうか、難しいところ

都市に文化的多様性が重要

- 保存をめぐる概念
Conservation (保存) / 基本的構造、細部を最大限残存させる
Preservation (保護) / 現状を凍結的に保存する
Protection (保護) / ウィリアム・モリスが提唱
Repair (修理) / 改善や部品・部材交換を加えて寿命を延長する
Restoration (修復) / 「当初の理想的な状態」に近づける
Rehabilitation (修繕) / 心地よい使い勝手を獲得する
Renovation (更新) / 現代的な性能を回復する
Renewal (刷新) / 面目を一新する
Conversion (コンバージョン) / 新しい寿命を付与する
Revivification (再生) / 更新・刷新・コンバージョン
Revitalization (再活性化) / 継承・改変による現代的な建築
Reconstruction (再建) / 取り壊して建て直す
Replica (レプリカ・再現) / そっくりのものを建て直す
Revival (リバイバル) / 過去の様式・手法を再び用いた現代の建築
Renaissance (ルネサンス) / 過去に発想を得た新しい建築



現代的に活用される国際文化会館



国際子ども図書館



たてものなが〜くたいせつに

(財)建築保全センターは、建築物の維持管理や改修など保全に関する調査研究・企画立案・技術開発等を通じて公共建築の適正な保全と新しい視点からのストックマネジメントを支援します。

保安の情報センターとして 公共建築物の有効活用をサポートします。 財団法人 建築保全センター BMMC Building Maintenance & Management Center 〒104-0033 東京都中央区新川1-24-8 TEL. (03) 9553-0070 FAX. (03) 9553-6767 E-mail: info@bmmc.or.jp URL: http://www.bmmc.or.jp